

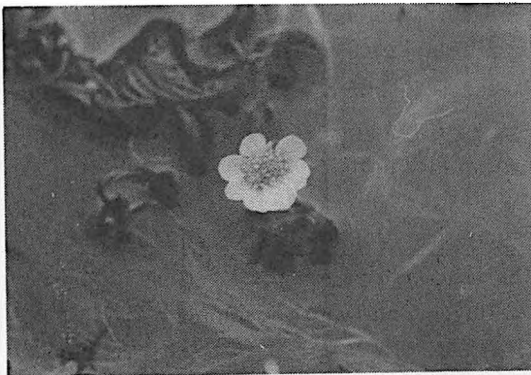
写真2. 常滑市鬼崎地区のウラギク (1986.11.2)

町の塩田跡地には、南知多ビーチランドが建設開園されているが、一角の沼池に群生が残存している。

抽水性のシバナについては、伊勢湾側の知多市、常滑市、美浜町と衣浦湾の最奥部境川にその生育記録がみられる。伊勢湾側の生育地はすべて消滅。現在、衣浦大橋北方の東浦町藤江の護岸堤防下に、小群生を確認するのみとなった。塩水の入る河口や用水に群生するウラギクは、まだ半島内各地でみられ、水質汚染に耐えて咲く花はたくましい。

バイカモの8弁花

角野康郎



バイカモの花弁は5枚がふつうで、注意しているとまれに6枚のものがある。ところが、昨年12月13日、兵庫県水上郡青垣町の佐治川(加古川上流)で開花中の花の中に8弁のものを1コ見つけた。珍しい例ではないかと思うので、写真で紹介しておきたい。

ところで、バイカモの花期について手元の文献をみる

と、6~8月としているもの(佐竹他編『日本の野生植物』など)から、3~11月(大滝・石戸著『日本水生植物図鑑』)としているものまでであるが、私自身の観察によるともう少し長いようだ。事実、上記の観察も12月中旬のもので、いかに暖冬とはいえ狂い咲きといった性質のものとは思われなかった。では、真冬にはどうなるのかと思い、去る2月7日に現地の様子を見に行った。バイカモはあざやかな緑色で元気よく育っていたが、さすがに水面上に出て咲いている花はなかった。しかし、水中で開花中の花をいくつか認めたほか、つぼみは次々と発達していることが確認できた。実がたくさんあったことも、ごく最近の開花を示唆していた。ちなみに当日は暖かい日で、正午の水温は9.2℃であった。

豊富な湧水があって冬も水の暖かい所では、一年を通して開花が続くのではないかというのが私の予想である。身近にそのような場所のある方に、ぜひ確かめていただきたいものと思っている。

○文献リスト<1986—(2)>

- 井上裕靖・植木邦和. ホテイアオイの密生群落形成過程について. ホテイアオイ研Newsletter (9): 2-6.
- 薄葉 満. イセウキヤガラを福島県に記録する. 東北植物研究 (3): 18.
- 大隈光善. 筑後川下流域のクリーク雑草「チクゴズズメノヒエ」の生態と防除. 雑草研究 31: 108-115.
- 沖 陽子. 水生植物利用学会に参加して. ホテイアオイ研Newsletter (9): 17-19.
- 小田中敏男. ホテイアオイの密度管理と在庫システム. ホテイアオイ研Newsletter (9): 13-14.
- 桃田聖孝・清水正元. ホテイアオイサイレージの実用的調整法に関する研究. ホテイアオイ研Newsletter (9): 6-8.
- 栗原 康・佐藤雅志・吉田輝久・森 忠洋. ヨシ(Phragmites australis)を利用した下水汚泥のコンポスト化とその水稻への施用効果. 日本土壤肥料科学雑 57: 442-446.
- 汐見信行・鬼頭俊而. アカウキクサの多目的利用. 水処理技術 27: 123-130.
- 種坂英次. ヒエ属多年生種, Echinochloa stagnina

- (Retz) Beauv と *E. picta* (Koen.) Michel の浮性. 雑草研究 31 : 136-142.
- 外山雅寛. 北海道勇払郡苫小牧市より *Utricularia* 数種の分布記録. 食虫植物研究会誌 37 : 98-103.
- 中島章和. 本宮町にもミズニラが自生していた. くろしお(南紀生物同好会) (5) : 17-18.
- 納田美也. 御坊川(香川県高松市)におけるオオイシソウとヒルムシロ類の季節的消長. 香川生物 (14) : 23-27.
- 浜島繁隆・須賀瑛文. 塚ノ杵池と周辺の植生. ため池の自然(名古屋ため池の自然研究会) (4) : 3-5.
- 細井幸兵衛. 青森県のスギナモ (*Hippuris vulgaris* L.). レポート日本の植物 (30) : 97-98.
- 本村輝正. ホテイアオイの搾汁と組織破壊試験. ホテイアオイ研 Newsletter (9) : 8-12.
- 宮崎 昭. アメリカと中国でみたホテイアオイ. ホテイアオイ研 Newsletter (9) : 15-16.
- 山本雄慈・松本 理. ハスの生長点培養に関する研究. 農業および園芸 61 : 1327-1328.
- Cleland, C. F. & O. Tanaka. Inhibition of flowering in the long-day plant *Lemna gibba* G 3 by Hutner's medium and its reversal by medium modification. Plant Cell Physiol. 27:1153-1158.
- Fujioka, S., A. Sakurai, T. Yamaguchi, N. Murofushi, N. Takahashi, S. Kaihara, A. Takimoto & C. F. Cleland. Flowering and endogenous levels of plant hormones in *Lemna* species. Plant Cell Physiol. 27 : 1297-1308.
- Ito, M. Studies in the floral morphology and anatomy of *Nelumbo nucifera*. Acta Phytotax. Geobot 37:82-96.
- Kadono, Y. & E. L. Schneider. Floral biology of *Trapa natans* var *japonica*. Bot. Mag. Tokyo 99:435-439.
- Nishioka, H., Y. Nasu, M. Kugimoto, S. Kaihara & A. Takimoto. Flower-promoting effects of iron and EDDH A in *Lemna paucicostata* 151. Plant Cell Physiol. 27:1369-1376.
- Oyamada, M., T. Tanaka, Y. Takasawa & T. Takematsu. Enzyme hydrolysis of naproanilide in leaf discs of rice plants and *Sagittaria pygmaea* Miq. Weed Res Japan 31:130-135.
- Shimoda, M. The vegetation of irrigation ponds in the Oasa basin, Hiroshima Prefecture, western Japan. Hikobia 9:457-465.
- Takagi, S. & R. Nagai. Intracellular Ca^{2+} concentration and cytoplasmic streaming in *Vallisneria* mesophyll cells. Plant Cell Physiol. 27:953-960.
- Takimoto, A. & S. Kaihara. The mode of action of benzoic acid and some related compounds on flowering in *Lemna paucicostata*. Plant Cell Physiol. 27:1309-1316.
- Tanaka, O. & K. Asagami. Ferricyanide induces flowering by suppression of nitrate assimilation in *Lemna paucicostata* 6746. Plant Cell Physiol. 27:1063-1068.
- _____, T. Yokoyama, Y. Kono & Y. Nasu. Measurement of endogenous phosphorous levels in relation to flowering in the long-day plant *Lemna gibba* G 3. Plant Cell Physiol. 27:1277-1284.
- Uheda, E. Isolation of hair cells from *Azolla filiculoides* var. *japonica* leaves. Plant Cell Physiol. 27:1255-1262.

Aquatics Vol. 8 No.2 抄録(前号のつづき)

○Surface Area of Aquatic Macrophytes (Mark v. Hoyer, and Daniel E. Canfield, Jr.)

これまでの研究で、植物の重量当りでは抽水植物よりも沈水植物に付着藻類や水生昆虫が多く住んでいることが知られている。この理由として重量に対する表面積の比が沈水植物の方が大きいためと考えられてきたのを実際に検証したもの。7種の沈水植物と11種の抽水植物の表面積を測定した結果、比の平均値は沈水植物が319、抽水植物が247 cm^2/g 乾重であった。これは仮説を裏づけるもので、今後水草を他の生物の基質とかかくれ家と